

全国市街地の変遷

—昭和の記憶から次代へ

岐阜県の最北東端に位置する飛騨市神岡町は総面積3.12平方キロ、人口9,000人ほどで、富山県と高山市を結ぶ交通要衝にある。周囲は標高3,000メートルを超える北アルプスや飛騨山脈など峰々に囲まれ、神通川の支流である高原川が南北に貫通する自然に恵まれた地域である。

神岡町は1874年頃から約130年間にわたり、鉱山事業を中心として鉱山城下町が形成されていった。1960年に鉱山の総採掘量が7,500万トナに及び「東洋一の鉱山」といわれ、社会問題にもなった。

鉱山城下町の衰退

しかし採掘鉱脈が細り、鉱石(亜鉛、鉛等)類の枯渇により、事業規模が縮小し、01年には全面的な採掘中止に追い込まれた。神岡鉱山

地域再生の柱として大きく2つの施策を進めている。一つは古くからの魅力ある歴史と「廃線エコプロジェクト」として立ち上げた、「廃線エコプロジェクト」として立ち上げた、旧神岡鉄道の廃線を利用して旧奥飛騨温泉口駅から旧神岡

さらに地元の有志が「カミオカンデ」に代表される最先端宇宙物理学研究施設の整備拡充である。

具体的には、鉱山城下町を残した昭和レトロな街並みに沿る「風景」、神岡鉄道廃線跡にレールマウンテンバイクでの「体験」、旧神岡鉱山跡に設置された「最先端宇宙物理学研究」「学び」を一体化させた、「科学と文化と交流のまち」を目指した環境の整備である。旧炭鉱地区は往

飛騨市神岡町 人口推移 (2015年度は未発表)

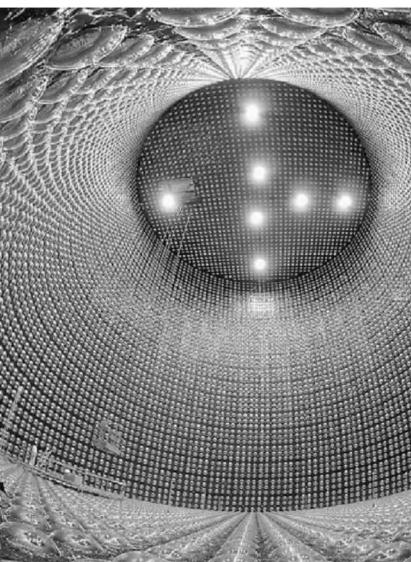
宇宙最先端科学研究のまち

古いものを生かし新しいものを取り入れる

の未処理廃水によって富山県の神通川下流域で発生したタイタイタイ病が公害病と認定され、社会問題にもなった。よる「風景」、神岡鉄道廃線跡にレールマウンテンバイクでの「体験」、旧神岡鉱山跡に設置された「最先端宇宙物理学研究」「学び」を一体化させた、「科学と文化と交流のまち」を目指した環境の整備である。

ノーベル物理学賞

特筆すべきは、古くからの資源を最先端科学に再利用した「スーパー・カミオカンデ」だ。地下に蟻の巣のように広がる長さ約1300メートルのまちづくりをコンセプトに、今後さらに古民家を再生して宿泊施設やイベント開催など交流の場として活用する計画も進めている。創意と工夫でまちおこしを行なう先駆けであり、今後の躍進



宇宙素粒子観測装置「スーパー・カミオカンデ」(東大宇宙線研究所施設)

神岡町は、1874年頃から約130年間にわたり、鉱山事業を中心として鉱山城下町が形成されていった。1960年に鉱山の総採掘量が7,500万トナに及び、「東洋一の鉱山」といわれ、社会問題にもなった。

具体的には、鉱山城下町を残した昭和レトロな街並みに沿る「風景」、神岡鉄道廃線跡にレールマウンテンバイクでの「体験」、旧神岡鉱山跡に設置された「最先端宇宙物理学研究」「学び」を一体化させた、「科学と文化と交流のまち」を目指した環境の整備である。

旧炭鉱地区は往

鉱山前駅まで往復約5・8キロをレールマウンテンバイクで走行する「ガツタンゴー」が人気を呼び、これを目標に全国から観光客が集まるようになった。

世界最先端の宇宙科学研究所として国内外から注目を集めることになった。02年に小柴昌俊氏、15年には梶田隆章氏が「ユートリノ研究」によりノーベル物理学賞を受賞したこと、ノーベル物理学賞を受賞したことなどは記憶に新しい。

神岡町は今、「宇宙最先端科学研究所のまち」として市街地活性化を進めている。歴史ある豊富な鉱山資源を最大限に生かしたまちづくりをコンセプトに、今後さらに古民家を再生して宿泊施設やイベント開催など交流の場として活用する計画も進めている。創意と工夫でまちおこしを行なう先駆けであり、今後の躍進

を利用し、地下1,000メートルの広大な地下空間にニュートリノ所、不動産鑑定士・西村隆)